

鉄の歴史村フォーラム2009

基調講演 当日資料

(中国山地でのたたら製鉄～安芸地域の事例から～ / 山崎一郎 氏)

中国山地でのたたら製鉄 ～安芸地域の事例から～

山口県文書館 専門研究員 山崎一郎

はじめに

- (1) 広島県安芸太田町(旧戸河内町・加計町・筒賀村)・北広島町(旧芸北町・大朝町・千代田町・豊平町)
→ 安芸国山県郡。江戸時代は広島藩領(元和5年～浅野氏、426,500石)。鉄山業の一大中心地。
- (2) 広島藩領を代表する鉄師佐々木家(屋号隅屋/明治以降、加計家を名乗る)
→ 山県郡を中心に大規模に鉄山業を展開。石見国にも進出。隅屋文庫。「芸州加計隅屋鉄山絵巻」
- (3) 広島藩領と松江藩領における鉄山業、その類似点と相違点。

1. 江戸時代の中国地方と鉄山業

- (1) 天明4年(1784)「鉄山必要記事」(伯耆国日野郡住・下原重仲著)
諸国鉄ノ出ル所
播磨・但馬・美作・因幡・伯耆・備中・備後・出雲・石見・安芸・薩州也、奥州にも有るとは聞けども未詳
- (2) 天保15年(1844)「江戸新材木町名主石塚三九郎上申書」
鉄の儀は、伯耆・出雲・石見・美作・備前・備中・備後・安芸・長門、そのほか奥筋南部より伐り出し候内、伯州・雲州・石州・芸州おもにこれあり、右出産の鉄類、残らず大坂表へ相廻し、それより御当地ならびに北国へも積み付け候儀にこれあり
- (3) 明治7年(1874)「府県物産表」(各府県の鉄生産量・砂鉄産出量を示す史料)
→ 中国諸県(現在の広島・島根・岡山・鳥取県)が圧倒的な位置を占める。
- (4) 良質な砂鉄を産出。豊富な山林資源。藩による強力な保護政策

2. 広島藩領における鉄山業

- (1) 鉄山業操業地域 → 備後国:三次・恵蘇・奴可・三上郡 安芸国:山県郡・高田・高宮・豊田
・江戸時代初期は備後諸郡が優勢。山県郡は後発地帯。
・享保頃(1700年代前期)には山県郡も備後諸郡と肩を並べる生産量
- (2) 領地高に含まれる「鉄山高」
・元和5年(1619)「備後国引渡知行帳」 → 幕府から浅野家へ宛がわれた備後国の領地高に鉄山役高 918.47石(鉄役447.72石、ふき役326.75石、かなら役144石)が含まれている。
- (3) 藩の鉄山政策(山県郡を中心に) @松江藩との類似点と相違点
 - ① 鉄山業者へ対し営業札(鑪札・吹屋札・吹屋馬札等)を交付し役銀(初期は現物)を徴収
 - ② 寛永5年(1628)、太田川筋での鉄穴流しの禁止(広島城の堀が埋まるとの理由)
→ 鑪操業者は石見国から砂鉄購入 @松江藩:慶長15年(1610)鉄穴流し禁止→寛永13年(1636)解禁

③17世紀後期、鉄専売制の実施 @松江藩:17世紀中～後期、御買鉄制の実施

- ・延宝8年(1680)、御買鉄制の実施(広島城下の商人による独占的買い占め)
- ・元禄9年(1696)、広島座鉄制の開始(大坂鉄商人海部屋による独占販売) → 鉄師は廃止を嘆願
- ・正徳2年(1712)、海部屋に対する藩の借銀を山県郡鉄師が肩代わりする代わりに座鉄を免除

④操業者数の制限 → 鑪2ヶ所、割鉄鍛冶屋24軒、釘地鍛冶屋5軒

@松江藩:享保11年(1726)鉄方法式の実施 → 鑪鍛冶屋数の制限。鉄山・鉄穴の配分

⑤為替米制度:郡内諸村の年貢米を鉄師へ払い下げる制度 @松江藩:養米制

⑥山県郡における鉄山業 ~人々の暮らしと鉄山業~

山県郡はすべて山深く、奥山十七ヶ村といい、麦も生い立たず、稲作一遍にて、木綿・大豆等も出来ず(中略)、鉄山働き第一にて、平常山へ行き、木を伐り、又は炭に焼、鑪所または鍛冶屋へ負い行き渡世の第一とす、作り立候米は性悪く、先年より貢に出る事なく、鑪所または鍛冶屋場へ飯米に売り渡し、その代銀は鑪師鉄師より直に銀にて御代官所へ納め来り候義例也 (「郡用秘書」)

〈参考〉松江藩領仁多郡の事例

当郡(仁多郡)の儀は、鉄方余力諸働をもつて御年貢不足諸勘定手合せ仕り、渡世を送り(中略)、小石の百姓は稲刈場仕舞い次第、鑪鍛冶屋炭焼・諸日用にてめいめい口過、その上御年貢不足諸勘定ともに償い申し候

(4)「山県割」ブランド

芸州山県郡に鉄山師これあり候て、長延鉄出候につき、通号山県割と唱え、右のうち、φ印、もつばら江戸表へ積み下し候につき、今にては山県割の惣名、江戸にてはφと唱えこれある由(「鉄山必要記事」)

3. 佐々木家の鉄山経営

(1)佐々木家の概略

①山県郡加計村住

②「芸藩通志」(広島藩編纂の地誌)にみえる評価

家産鉄鋼を主とす、郡の豪戸たり、世々勤儉慈恵を以て一家の風を立つ、その資を損て究を賑わすこと世々絶えず、奥山県の民、この一家を仰むものまた多し

③鉄師頭取役のほか、割庄屋(他藩での大庄屋クラス)など郡レベルでの役職を歴任

④経済的位置

a、文政2年(1819)「国郡志御用につき下調帳」に記された佐々木家の資産

一、鑪	2ヶ所	一、鍛冶屋	11軒	一、酒造場	4ヶ所
一、広島出店	1軒	一、大坂出店	1軒	一、大坂通船	2軒
一、川艀舟	18艘	一、土蔵	36ヶ所		
一、借屋竈	489竈				

この借家と申し候名目、賃房にてはござなく、鑪鍛冶屋両場の者、その余田畠山林舟方等働きの者の住居にてござ候

一、家僮	2103人	一、牛	48匹	一、馬	487匹
------	-------	-----	-----	-----	------

〈参考〉山県郡全体で牛5771匹、馬3816匹、船54艘、人口53,382人

b、持高の変遷

寛永15年(1638):所有地7町歩(加計村36石余) → 明和5年(1768):142石(加計村106石)

→ 天保14年(1843):528石 → 明治2年(1869) 戸河内村での山林551町

⑤伝承では、隠岐守護佐々木清高の子佐々木富貴丸五郎を祖とする。

→ 正慶2年(1333)、隠岐島後から逃れ安芸国山県郡加計村へ移住したという伝承

⑥隅屋文庫(広島大学蔵):佐々木家に伝来した文書群。数万点。

(2) 鉄山業の展開

- ①寛永 19 年(1642)、長割鍛冶屋 1 軒を所持(確実な史料の初見)
- ②貞享 4 年(1687)、藩営鑪・鍛冶屋(山県郡戸河内村)を譲り受ける
- ③18 世紀初期、鑪1軒、鍛冶屋 2 軒
 - ・以後、急速に経営を拡大(鍛冶屋数の増加)／19 世紀前期(文化文政期)が最盛期
 - ・戸河内村を中心に、東西八幡原村・橋山村など山県郡西部地域で鉄山業を展開
 - ・砂鉄は、石見国井野村・鍋石村・都川村・大坪村などから購入
- ④19 世紀以降、石見国への新出
- ⑤幕末期、経営の行詰まり(広島藩領における超インフレ、良質な砂鉄の枯渇) → 嘉永 6 年(1853)、藩営化
- ⑥明治初年、県内各郡鉄山は広島鉄山として官営操業
 - 明治 10 年(1877)、佐々木家分は返還されるものの、同 12 年、鉄山業より撤退。

(3) 鑪・鍛冶屋操業

- ①山県郡西部諸村での鑪鍛冶屋操業 → 木を切り尽くすと次の山へ(5,6 年～10 年前後)
 - ・18 世紀前半期、鑪操業に適した山をめぐる鉄師間での競合
 - ・鑪操業に適した山を集積(前貸し、買い切り)
- ②鑪近辺に鍛冶屋を併設(鑪+鍛冶屋 2 軒)、鍛冶屋単独で操業する場所もあり
- ③鑪操業のあり方
 - ・鉄生産に特化(1 代3日) *石見国で操業した鑪では鋸押鑪も
 - ・18 世紀における急激な年間鉄生産量の増加(1 代当たりの鉄生産量+年間操業回数の増加)
- ④鉄の販売ルート
 - ・鑪・鍛冶屋 → 加計村の鉄蔵 → 太田川 → 広島 → 大坂
 - ・鉄販売量の推移:18 世紀～19 世紀後半で 4 倍
 - ・19 世紀には下関売りや広島地売りも

(4) 「芸州加計村隅屋鉄山絵巻」(広島県指定重要文化財「紙本著色隅屋鉄山絵巻」)

- ・江戸時代後期(18C 後半～19C 初)、芸北出身の幕末の狩野派画家佐々木古仙斎の作
 - ・江戸時代の鉄山業をビジュアルに示す好史料
- ※「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」(東大工学研究科所蔵)

おわりに

- (1)江戸時代の中国地方は日本における鉄生産の一大中心地 → その歴史へもっと注目を!
- (2)藩域、国域を超えて連携し、関係し合う中国地方の鉄師・百姓

【参考文献】

- ①向井義郎「近世における鉄山経営の形態-芸州佐々木家の鉄山業を中心として-」(『史学研究』59 1955 年)
- ②向井義郎「中国山地の鉄」(『日本産業史大系-中国四国地方編-』東京大学出版会 1960 年)
- ③『加計隅屋文庫目録』(広島大学 1963 年)
- ④武井博明『日本製鉄史論』(三一書房 1972 年)
- ⑤『広島県史』民俗編(広島県 1978 年)、近世 1・2(1981～84 年)
- ⑥土井作治「広島藩営鉄山の成立とその構造」(『産業の発達と地域社会』溪水社 1982 年)
- ⑦『戸河内町史』通史編(上)第 6 章「鉄山業の動向と戸河内」(山崎執筆)(広島県戸河内町 2002 年)
- ⑧広島県立歴史民俗資料館 平成 18 年度企画展展示図録『鑪—中国地方の鉄と人—』(2006 年)
- ⑨山崎一郎「安永～天明期における大坂鉄座反対運動の展開」(『近世地域史フォーラム』3 2006 年)

表1 明治7年各府県別鉄生産量・砂鉄産出量（「府県物産表」より作成）

県名	鉄生産量(貫)			砂鉄産出量		
	(貫)	%	順位	(貫)	%	順位
広島	1,468,146.3	42.0	1	3,370,144.0	38.8	2
島根	852,552.0	24.4	2	3,465,312.0	39.9	1
浜田	177,904.0	5.1	5	144,388.0	1.7	7
鳥取	57,838.0	1.7	8	93,878.0	1.1	8
北条	187,321.0	5.4	4	995,020.0	11.5	3
小田	474,454.0	13.6	3	213,610.0	2.5	4
飾磨	65,392.0	1.9	7		0.0	12
新治		0.0	17	55,830.0	0.6	9
茨木	4,572.0	0.1	14		0.0	12
宮城	9,950.0	0.3	12		0.0	12
水沢	22,947.0	0.7	9	175,982.0	2.0	5
岩手	129,295.4	3.7	6	2,357.0	0.0	11
青森	17,200.0	0.5	11	150,000.0	1.7	6
石川	20,790.5	0.6	10		0.0	12
和歌山	350.0	0.0	16		0.0	12
小倉	1,850.0	0.1	15	9,000.0	0.1	10
宮崎	7,330.0	0.2	13		0.0	12
[合計]	3,497,892.2	100.0		8,675,521.0	100.0	

表2-1 佐々木家の鑪操業（山県郡）

操業期間	年数	操業場所	鑪名
貞享年間		戸河内村横川	藩宮鑪譲受
元禄 12(1699)～宝永 2(1705)	6	戸河内村柴木	蔵座鑪
宝永 3(1706)～宝永 4(1707)	2	橋山村	繁野尾鑪
宝永 5(1708)～正徳 2(1712)	5	戸河内村柴木	蔵座鑪
? ～享保 4(1719)		戸河内村横川	田代鑪
享保 4(1719)～享保 13(1728)	10	戸河内村横川	横川鑪
享保 13(1728)～元文 2(1737)	10	橋山村	青松鑪
元文 2(1737)～寛保 2(1742)	6	戸河内村松原	登尾鑪
寛保 3(1743)～宝暦 11(1761)	19	戸河内村横川	横川中ノ甲鑪・田代鑪
宝暦 11(1761)～明和 2(1765)	5	戸河内村柴木	もち小屋鑪
明和 2(1765)～安永 6(1777)	13	橋山村	松永鑪
安永 6(1777)～天明 3(1783)	7	東八幡原村	甲繫鑪
天明 3(1783)～天明 6(1786)	4	西八幡原村	面谷鑪
天明 6(1786)～寛政 6(1794)	9	戸河内村板ヶ谷	政ヶ谷鑪
寛政 6(1794)～文化 2(1805)	12	戸河内村柴木	餅ノ木鑪
文化 2(1805)～文化 8(1811)	7	戸河内村横川	田代鑪
文化 6(1809)～文化 14(1817)	9	川小田村	若杉鑪
文化 8(1811)～文政 4(1821)	11	戸河内村松原	登尾鑪
文政 4(1821)～天保 11(1840)	20	橋山村	松永鑪
天保 3(1832)～天保 10(1839)	8	橋山村	定徳鑪
天保 11(1840)～嘉永 3(1850)	11	東八幡原村	甲繫鑪
嘉永 4(1851)～嘉永 6(1853)	3	西八幡原村	面谷鑪

⑦より加工引用

表2-2 同上（石見国内）

年代	鑪操業場所
寛政 1～10(1789～98)	邑智郡市木村宝祖原
寛政 9～12(1797～1800)	邑智郡日貫村日平
文化頃(1800～10代)	美濃郡道川村本谷
文政初年～(1810～20代)	那珂郡波佐村栃下
文政 12(1829)～	那珂郡波佐村七條原
天保 8(1837)～	那珂郡市木村道形
天保 8(1837)～	那珂郡小角梨ヶ谷
弘化 3(1846)～	那珂郡波佐鍋滝
弘化頃	速水

向井義郎①より作成

表3 山県郡内の山内人数

年次	西暦	鑪・鍛冶屋名	男	女	計
天明 7	1785	政ヶ谷鑪・鍛冶屋(2軒)	176	145	321
天明 7	1785	板ヶ谷鍛冶屋(1軒)	37	37	74
文化 4	1807	田代鑪・鍛冶屋(2軒)	218	178	396
天保 7	1836	板ヶ谷鍛冶屋(1軒)	36	25	61

⑦より加工引用

(参考) 山県郡内諸村の戸数・人数

村名	戸数	人数
1 戸河内村	1178	4729
2 加計村	1159	3850
3 橋山村	56	279
4 東八幡原村	114	509
5 西八幡原村	152	792
6 雲耕村	38	216
7 奥中原村	69	379
8 川小田村	58	250
9 細見村	110	583
10 大暮村	78	418
11 高野村	54	317
12 溝口村	125	647
平均	266	1081
平均(除1・2)	85	439

「芸藩通志」より作成

表4 山県郡における鑪・鍛冶屋・鉄師の動向

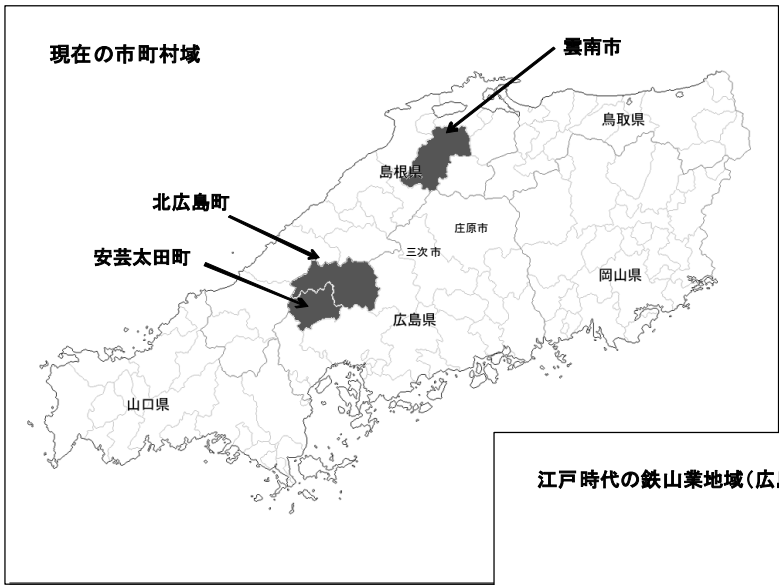
	享保12年(1727)		宝暦8年(1758)		安永6年(1777)		寛政3年(1791)		天保6年(1835)	
	鉄師名	軒数	鉄師名	軒数	鉄師名	軒数	鉄師名	軒数	鉄師名	軒数
鑪	加計村八右衛門	1	加計村八右衛門	1	加計村八右衛門	1	加計村八右衛門	1	加計村八右衛門	2
	都志見村長兵衛・七郎左右衛門	1			宮地村四郎兵衛	1	宮地村四郎兵衛 ※休職中	1		
	(計)	2	(計)	1	(計)	2	(計)	2	(計)	2
割鉄鍛冶屋	加計村八右衛門	2	加計村八右衛門	5	加計村八右衛門	6	加計村八右衛門	7	加計村八右衛門	7
	都志見村長兵衛・七郎左右衛門	6	都志見村五郎兵衛・専助	6	都志見村五郎兵衛・七郎左衛門	6	都志見村五郎兵衛・七郎左衛門	5	都志見村長兵衛・七郎左衛門	6
	田原村四郎右衛門	1	田原村惣五郎	1	田原村四郎右衛門	2	田原村四郎右衛門	1	田原村四郎右衛門	1
	宮地村四郎兵衛	1	志路原村儀七	1	宮地村四郎兵衛	4	宮地村四郎兵衛	1	加計村伝右衛門	1
	宮地村平助	1	溝口村庄左衛門	2	志路原四郎左衛門	1	志路原四郎左衛門	1	後有田村彦四郎	1
	志路原村市郎右衛門	3			戸谷村幸右衛門	1	戸谷村次郎左衛門	1		
	志路原村清三郎	1			溝口村半之助	2	川戸村禎三	1		
	戸谷村平左衛門・三郎助・助次郎	1					大朝村藤左衛門	2		
	穴村清八	2					大利原村金左衛門	1		
	津浪村文助	2								
	加計村藤右衛門	1								
高野村庄三郎	1									
(計)	22	(計)	15	(計)	22	(計)	20	(計)	16	
釘地鍛冶屋	加計村八右衛門	1	戸谷村幸右衛門	1	(不明)	新庄村彦五郎	1	(不明)		
	都志見村長兵衛・七郎左右衛門	1	新庄村清左衛門	1		新庄村左平次	1			
	高野村庄三郎	1	新庄村佐平次	1		大朝村助右衛門	1			
	大朝村七兵衛	1	川戸村久五郎	1		大朝村彦太郎	1			
			大朝村藤十郎	2		大塚村八右衛門	1			
			大塚村八右衛門	1						
			大塚村十蔵	1						
			大塚村作十郎	1						
(計)	4	(計)	9	(計)	5					

⑦より加工引用

表5 佐々木家産鉄の販売先の動向(比率動向)

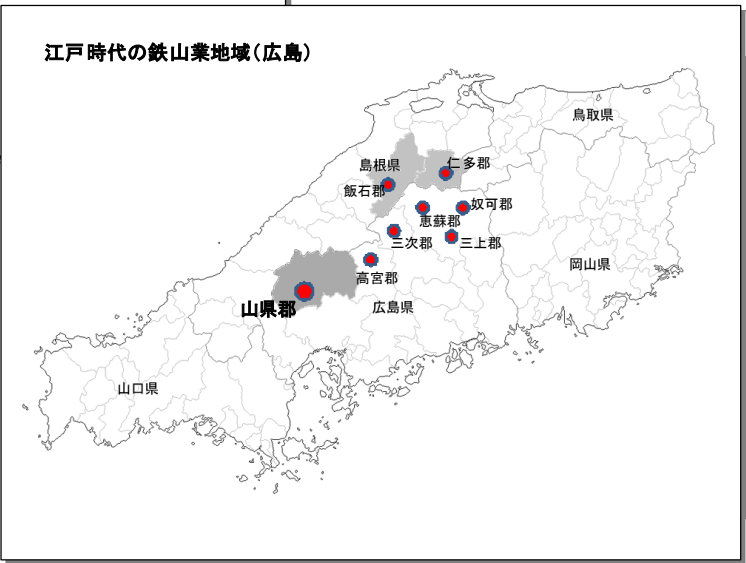
	大坂	広島・可部・尾道	下関	山陰諸港	兵庫	諸国売	その他	計
元禄9(1696)～正徳5(1715)	98.2	1.7	0.1					100.0
享保1(1716)～享保20(1735)	90.9	8.5	0.3				0.3	100.0
元文5(1740)～宝暦5(1755)	92.2	7.5	0.3					100.0
宝暦6(1756)～安永4(1775)	99.1	0.8	0.1					100.0
安永5(1776)～寛政7(1795)	94.5	1.1	4.3					99.9
寛政8(1796)～文化2(1805)	83.4	14.3	2.3			0.0	0.0	100.0
文化3(1806)～天保6(1835)	80.6	15.4	0.4		0.7	1.3	1.6	100.0
天保7(1836)～嘉永5(1852)	76.4	17.2	0.4	1.8	0.1	1.2	2.9	100.0

武井博明④より加工引用



スライド①

スライド②



スライド③

